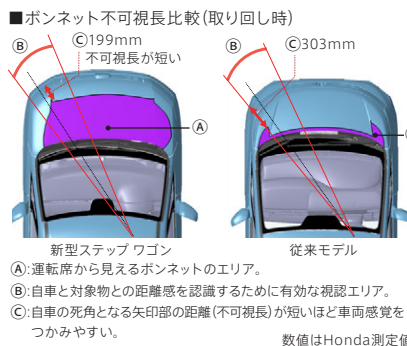
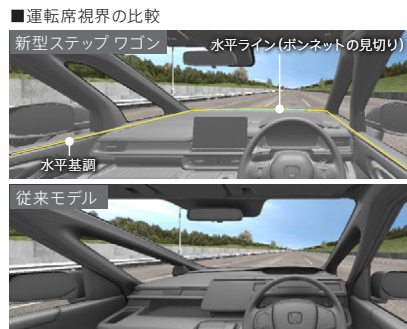


■ 車両感覚を把握しやすい運転席からの視界

ミニバンの場合、駐車場で車庫入れや縁石への幅寄せなどの際に、ボンネットの見切りとサイドウィンドウの稜線を定規のようにして操作する人が多いです。そこで新型ステップ ワゴンは、ボンネットの見え方やフロントピラーの配置、ダッシュボード形状など、多岐にわたる要件を統合的に検証。水平基調のベルトラインを活かしながらボンネット後端付近の見切りラインを直線で水平につなげるようにしました。駐車する時は車両感覚をつかみやすく、走行中もすっきりとした視界を実現しています。



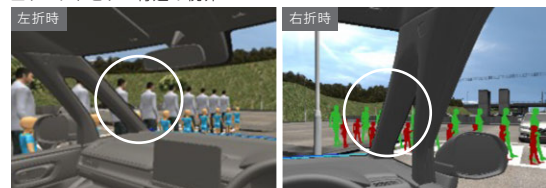
■ ボンネットの見え方を追求

駐車する際などに車両前方を覗き込んだ時にボンネットがしっかり見えていると障害物との距離がつかみやすいと考え、走行時の視界には影響なく覗き込んだ時にボンネットの端が見えるよう、形状にこだわりました。

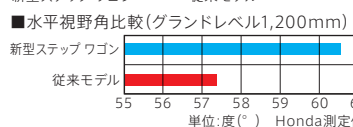
■ 交差点で歩行者を認識しやすいフロントピラーまわり

交差点での右左折時に横断歩行者の存在を認識しやすくするために、フロントピラーの位置や形状に工夫を施しました。従来モデルよりも70mmドライバー寄りに設置し、ピラー前は見やすさを向上。加えてフロントダッシュピラーを屈曲させ、フロントドアガラスの昇降ガイドに用いていた三角パッチを廃止。ドアミラーもドアスキンマウントとすることで、見やすさをさらに向上しています。

■ フロントピラー付近の視界



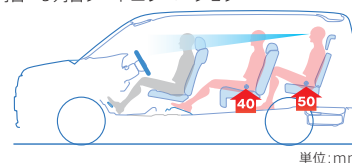
■ フロントダッシュピラー形状比較



■ 乗り物酔いしにくい3列目を目指した視界の工夫

長距離の移動でも快適に過ごすためには、疲労感につながる要因を減らすことも重要となります。新型ステップ ワゴンは、そのなかでも乗り物酔いの低減に着目。開発当初から社内の乗り物酔いを研究するチームと検討を重ねたところ、乗員は前方が見えにくいと横を向くなどして姿勢が崩れ、頭部をしっかりと支えられなくなるため酔いやすくなる、ということがわかりました。そこで、1列目から3列目にかけてヒップポイントを徐々に高く設定するエレベーションについて、従来モデルよりも高低差を増やし、3列目シートをより高く設置。さらに2列目シートのシートバックやヘッドレストの形状に工夫を施し、前方視界をしっかりと確保しています。また、水平基調のベルトラインと、それに並行するウィンドウ上端のラインが視野を安定させる効果を生み、よりいっそう快適に過ごせる空間を実現しています。

■ 1列目-3列目シートエレベーション



■ シートエレベーション ヒップポイント比較

車名	1列目-2列目	2列目-3列目
新型ステップ ワゴン	40	50
従来モデル	30	40

単位:mm Honda測定値

■ 良好な視界確保のための工夫

3列目からの視界イメージ



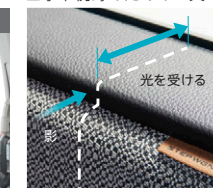
〈アイポイントレベル:9歳児〉

2列目からの視界イメージ



〈アイポイントレベル:ジュニアシート+6歳児〉

■ 水平視野のための工夫



ドア断面に厚みを持たせ、上面と表皮の境目に光の面と影を作ることによって、水平視野を強調しています。

■ 3列目が特等席となる快適なシート

シートエレベーションや2列目シートの形状などによる見晴らしのよさに加え、3列目シートの座り心地にも徹底的にこだわりました。ステップ ワゴンならではの床下への格納機能と両立を図りながら、従来モデルに対して、シートクッションは最大で21mm厚くし、シートバックは最大で16mm厚くするとともに45mm高く設定。長距離の移動でも疲れにくい、快適に過ごせるシートを実現しています。

■ 3列目シート快適性向上

シートクッション厚:+最大21mm
シートバック厚:+最大16mm
シートバック高:+45mm
(従来モデル比)

